

この度、当院において医療事故が発生しました。患者様並びにご家族の皆様には多大な不安と苦痛を与えてしまったことについて、心より深くお詫び申し上げます。また、本院で治療を受けておられる患者様、国民の皆様には信頼を損ねる事故を起こしてしまったことについて、深くお詫び申し上げます。なお、医療事故の概要につきましては下記の通りです。

医療事故の概要

- 1 本院で肝細胞癌の手術を受けられた患者様で、外来担当医師(本院第一外科所属の 50 代男性医師)の判断により、数年にわたって CT や MRI などの画像診断を行わず、その後に肝臓での腫瘍の再発を来した患者様が 2 名おられることが判明しました。2 名とも、非肝炎ウイルス性肝疾患を背景に発生した肝細胞癌でした。1 名は腫瘍マーカーの上昇を契機に、もう 1 名は他院で行われた画像診断によって、それぞれ肝臓に腫瘍の再発がみつきり、現在も本院で治療を継続されております。
- 2 本院では、医療事故対策委員会で検討するとともに、外部委員を含む調査専門委員会を設置し、詳細な原因の究明と対策の検討を行いました。その結果、非肝炎ウイルス性肝疾患を背景として発生した肝細胞癌であっても、画像診断による定期的な経過観察が必要であり、画像診断を行わなかったために肝臓での再発の発見が遅れて、患者様の経過に重大な影響を及ぼしたという結論に至りました。
- 3 これらの事実については、患者様およびご家族に説明し、謝罪しました。
- 4 今後は、クリニカルパス等を活用して必要な検査の予定を明確にするるとともに、検査に漏れが生じないよう診療グループの複数の医師によって確認することで、同様な事故の再発防止に取り組んでまいります。